

＜今日の説教のポイント ヨハネによる福音書1章1-18節＞

イエス・キリストとは？ 待降節で3つの聖書箇所から考えます。

1 (1-5) ヨハネ福音書とは？ 事実ではなく事実が持つ意味を語る書。

ヨハネ福音書は他の福音書と比べると難解に思えますが、ヨハネが何を書こうとしたかを考えると変わります。他の記者は起こったこと(事実)をできるだけ正しく書き残そうとしています。しかし、ヨハネは違えます。彼は起こったことが持つ意味を伝えようとしているのです。1～5節では、イエス・キリストは言であり、光であり、命であるということをお伝えしようとしていると言えるでしょう。

2 (18) 御子は父なる神を示す方。父の何を示す？ 私たちへの愛！

「いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである」(18)。今日の箇所全体の鍵となる言葉です。イエス・キリストを見ても、神を見るわけではないのです。この方を通して、神についての大事なことが示されるのです。それは一言で言うと、神の私たちへの愛です！ 私たち造られたものは、造ってくださった方が私たちをどれだけ深く愛してくださっているかを知ることができればそれで十分。他のことは知らなくてもいいでしょう。

3 (6-13, 15) 洗礼者ヨハネは救い主を指し示す任務を負った人。

2で述べたことが分かると、難解に思えた出だしの言葉も分かって来ます。「言」の原語「ロゴス」は、「言葉、発言」の他に、「知恵、出来事」と訳されることもあります。まさに神を示すイエス・キリストにふさわしい語です（「言葉」だと葉っぱみたいだから「言」がいい：永井春子）。そうすると、6～13, 15節で洗礼者ヨハネとイエス・キリストとの違いが語られていることも理解できます。洗礼者ヨハネは人々に「この人を見よ」と主イエスを指し示す任務を負っていたのです。**「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた」(14)**。この様なお方を神様は私たちに与えて下さったのです。驚きの神様の恵みの御業です。礼拝後の祝会でこの恵みを皆で感謝しましょう！